

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯山のそばによる元気な地域づくり事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 飯山そば振興研究会
事業区分	(6)イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	5,020,186 円 (うち支援金: 3,776,000 円)

【雪室への玄そば入庫作業】

事業内容

① 6次化推進による高付加価値と販売強化事業

麺製造から包装・一時保存(冷蔵保管)などにより6次化を行うために必要となる機械・器具備品の購入(ハード事業)と必要な設備工事(共にハード事業)を行う。

(1)ハード事業(機械の購入)

- ・製麺機 1台 令和2年12月4日
- ・急速冷凍機 1台 令和2年12月4日

購入した製麺機・急速冷凍機を使用して約960食のそばを試作し、商品開発を行った。

(2)ハード事業2(工事)

- ・空調設備 1基 令和2年6月12日

② 情報発信・PR事業

(1)ソフト事業

・本格的な販売に向けて、そば粉とつなぎ(中力粉、強力粉)の配合による試作品づくりとそばのブランド力を向上させるためロゴマークを作成した。

③ そばの打ち手育成の為の講習会開催。(団体としての独自事業)

(1)講習会の開催(令和2年8月～令和3年7月)

- 毎月1回、年12回開催。
- ・二八そば6名受講、富倉そば8名受講 計14名
- ・前年度二八そば受講修了が2名富倉そば受講中



【目標・ねらい】

- ① 6次化推進による高付加価値化と販売強化事業
- ② ブランドづくりに向けた取組
- ③ そばの打ち手育成

※自己評価【B】

【理由】

栽培から麺製造過程までは施設機械が整ったが、コロナ禍により麺販売事業に遅れが出ている。

事業効果

- ・麺製造(手打ち) 640食
- ・麺製造(製麺機) 960食
- ・そば打ち手育成 14名

事業着手から3年目を迎え、当初計画を大幅に上回る栽培面積(18.6ha)、検査数量(705袋)となった。玄そばを麺に製造し、都会への消費宣伝活動と合わせた製品(麺)の販売を企画したが、昨年からの新型コロナ感染拡大は本年度に入っても収束の目処も立たず、移動自粛規制がとられる中で、地産地消を基本とした事業に方向転換し取り組んだ。雪室熟成そばの情報発信に向けた地元そば店での提供、商品アピールの為の商標作成、製麺機製造麺の規格検討、地元情報発信拠点(食堂・製麺所・富倉そば打ち手育成場所)の設置、道の駅直売所利用の為のJA組合員加入等により、栽培から麺販売体制までの取組み体制が整った。

今後の取り組み

- ・ 自家製粉施設の整備 (現在外注であり、今後麺製造に支障をきたさない為に)
- ・ そば製品販売
 玄そば、そば粉、麺 (機械製造麺、手打ち麺)、贈答用パック麺 (つゆ付き)
- ・ 面積拡大に対応するコンバイン・乾燥装置の導入 (当初計画面積を大幅に上回っている為)

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある